

令和4年度射水市障がい者地域活動支援センター実績報告

委託先	射水福祉会あいネットいみず	類型	地域活動支援センターI型
標準利用人員	20人/日	委託金額	12,000千円

1 事業総括

令和4年度目標	
(基礎的事業) ・相談員の資質（面談技術の向上及び社会資源の活用・調整力）の向上 ・利用者ニーズに即した創作的活動、生産活動と地域支援プログラムメニューの工夫・充実 (I型事業) ・ボランティア団体の活用の工夫と市民に対するボランティア参加の呼びかけの強化 ・民生児童委員、障がい者相談員や各種関係機関との連携の強化のための取り組みの実践	
事業内容	成果
基礎的事業 (1) 相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービス利用に関する相談、家族・人間関係に関する相談、就労に関する相談、成年後見に関する相談等を受けた。傾聴の姿勢で十分に話を聞き、的確なニーズ把握を行い、病院や包括支援センター等の関係機関と連携を図りながら対応した。1013件の相談のうち、464件は福祉サービスの利用計画作成を行った。 ・障がい者本人及び家族の心の拠り所としての役割を担った。 ・相談内容別では、福祉サービスに関するものが718件と最も多く、全体の約7割を占めている。 ・障がい別では、知的障がい者からの相談が628件と最も多く、次いで精神障がい者114件、身体障がい者111件となっている。
(2) 創作的活動及び生産活動の機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動支援センターでは、コロナの感染予防対策としてソーシャルディスタンスにも配慮しながら、利用者同士の交流の場づくりや雰囲気づくりに努めた。利用者は行事を心待ちしていたが、利用者のニーズに応えられるものがなかなか開催できず、昨年よりは少し増えたものの、例年の3分の一ぐらいで年間延べ378名しか創作的活動や生産活動、憩いの場に参加できなかった。 ・創作的活動の主なものとしては、できるだけ接触を控えて昼食づくり・お菓子づくりやフェルトで作る端午の節句、ジェルキャンドル、マグネットづくりなどの工作等を実施し、延べ69名が参加した。生産活動は109名が参加した。また、余暇支援活動としては今まで行ってきたカラオケ、ココスの再開が難しいことから、新たな社会資源の開拓に努め、近くのコミュニティセンターにお願いしてコミュニティセンターの行事（ランチとカラオケ）に参加させてもらった。利用者は嬉しそうにランチやカラオケを堪能していた。また、射水市のべいぐるんを利用した市内の観光も企画したところ好評であった。
(3) 社会との交流促進	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ前は、地域の中学生との交流活動を企画し、利用者が中学生と一緒に料理づくりや音楽活動に取り組み、交流を図っていたが、今年もコロナのため実施できなかった。そこで、今年は中学校の生徒を1名招待し、いみず苑に出向いてもらい、手品を披露してもらった。

<p>I型事業（機能強化事業）</p> <p>(1) 医療、福祉及び地域の社会基盤との連携強化及び調整</p> <p>(2) 地域住民ボランティアの育成</p> <p>(3) 障がいに対する理解の促進を図るための普及啓発活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間113回のサービス調整会議を通し、医療・福祉並びに地域の関係機関等との連携を図った。 ・特別支援学校を卒業する生徒に対し、適切な進路への移行が円滑に進むよう保護者、教師、事業所等による移行支援会議を開催した。 ・学校と連絡を取り、放課後等デイサービス事業所が特別支援学級を見学し、情報交換できる機会を設けた。 ・毎年地道に地域の学校と交流会を続けながら、ボランティアに対する意識を高めてきたが、コロナウイルス感染防止のため実施することができなかった。そこで、今年は、手品の得意な中学生と事前に打合せ、リハーサルをしながら、苑に出向いてもらい、発表する場を設けた。 ・昨年に引き続き大学教授を講師に迎え、手話通訳も依頼して、射水市立小杉南中学校の2年生を対象に「共生社会をはぐくむ～ウエルビーイング先進市射水市を目指して～」を演題に教育と福祉の講演会を行った。今年は中学生も手話を実際に学習し、障がいに対する理解の促進と普及を図った。 ・広報誌やホームページを活用して相談窓口の普及を図った。 ・障がい者週間にポスター掲示や障がい者の作品展示を行い、障がい福祉への理解、啓発普及を行った。 ・交流を図るとともに、普及啓発を目的に実習生を受け入れた。(延べ実習生19名。昨年もコロナウイルス感染防止のため受け入れができなかった。)
<p>(4) 地域活動支援センター間の調整</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市内4か所の地域活動支援センター間の連絡調整と、毎月第2木曜日に開催されるセンター連絡会の運営を行った。(年12回)

職員配置について

区 分	氏 名	資 格
管理者	稲垣 宏	
センター長・相談支援員	滋野 雅治	
相談支援専門員	田尻 里子	社会福祉士、介護福祉士
相談支援専門員	原田 早季	社会福祉士
相談支援専門員	藪下 萌	社会福祉士、介護福祉士

2 相談支援の実績

(1) 運営体制について

相談窓口

窓 口	場 所
受付窓口 8:30～17:15 電 話 24時間 (17:15～翌8:30は留守番電話対応) ファックス 24時間 メール 24時間	

(2) 相談件数について (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

①相談方法別件数(延べ件数)

訪問	来所	同行	電話
498	93	23	278

電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
1	113	0	7	1,013

②相談内容別件数(延べ件数) (相談内容を重複計上)

福祉サービス	障がい理解	医療機関同行	服薬・健康管理	不安解消	幼稚・保育園紹介
718	34	13	9	38	0

教育・進路	家族・人間関係	年金・生活保護	金銭管理	家事	育児
3	13	15	5	0	0

就労	サークル活動	外出・移動	虐待	成年後見	その他	合計
39	1	7	0	5	113	1,013

③相談受付件数(延べ人数)

身体	重心	知的	精神	発達	高次脳
111	0	628	114	51	0

その他(重複無)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	その他(重複あり)	合計
6	88	2	5	0	8	1,013

3 創作的活動及び生産活動、社会との交流促進の参加実績(延べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
創作的活動	3	4	4	13	0	1	11	9	2	8	5	9	69
生産活動	15	15	15	11	0	0	12	17	0	12	12	0	109
社会との交流促進	16	18	19	24	7	1	27	25	2	20	17	19	195
合計	34	37	38	48	7	2	50	51	4	40	34	28	373

4 課題

- ・保健・医療・教育・労働・司法等、関係機関との連携のあり方、強化、調整について
- ・家族の高齢化に伴う利用者以外の支援や家庭の力の弱い利用者への対応について
- ・利用者の高齢化に伴う介護と障がいの連携体制について
- ・民生児童委員や障がい者相談員、地域住民ボランティアとの連携強化について
- ・利用者の高齢化や病状の悪化により地域活動への参加機会の減少
- ・コロナ禍における活動の見直しと工夫
- ・幼小中高などにおけるサービス利用の状況や課題を関係機関がどのようにして共有し、理解、連携していただけるか

令和4年度 射水市障がい者地域活動支援センター実績報告

委託先	特定非営利活動法人ふらっと	類型	地域活動支援センター(基礎的事業のみ)
標準利用人員	10人/日	委託金額	6,000千円

1 事業総括

令和4年度 目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活支援拠点事業の整備の推進に協力し、地域社会資源の一つとして、障がいのある方や家族、一般市民が安心して利用・交流ができるセンターを目指す。 ・新型コロナウイルスとの共存を計りながら地域福祉の実現に努める。安全保障型接触サービスによる、従来通りの介助や直接支援と、非接触型サービスによる相談支援や研修、会議などの両立を計っていく。 ・一般の情報サイト運営会社やアーティストと協力し、ZOOM等を活用しながらコロナ禍でも楽しめ、生活意欲が高まるwithコロナの余暇支援を行う。 ・コロナ禍やアフターコロナにおいて、テレワークや働き方改革、離職等によって起こりうる、DVや虐待、プライバシーの侵害、コロナうつ、コロナ離婚など、家族の状態を把握する。母親の孤立感や障がいのある子の子育て、介護に加えて兄弟、夫などの世が増えることによる精神的負担感を開放できるよう支援する。 ・兄弟の精神疾患や不登校、引きこもり等、ヤングケアラーに関する取り組みを始める。 ・本人及び家族が「働く」ことについての啓発と支援。 ・障がい乳幼児の子育て支援や関り、専門性が必要な強度行動障害、医ケア、引きこもり、発達障がいの方の自立支援について理解を深める研修等を行い、直接援助技術の向上に努める。 ・障がいのある方の在宅生活の継続のためには、幼少期からの父親の関わりも大切。パパ支援のサークルを支援していく。 ・一般市民と共に学ぶ取り組みの実施。虐待防止を中心とした地域生活を推進するチームづくりを目指す。 	
事業内容	成果
基礎的事業	
(1)相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度は、子どもに関する相談件数が多かった。発達、育児、思春期、不登校、家族の就業の継続のための土・日・祝日のサービス利用などが主な内容で、長引くコロナ不安や、両親の就業形態や家族構成の変化など、要因は様々であった。本人以外にも兄弟姉妹に関する相談や関係機関との調整も増えている。 ・外国籍の児童のサービス利用に関して、言語や文化の違いがある中での支援の困難さを感じた。対象家族への各種手続きに対して、ワンストップサービス体制づくりが望まれる。 ・引きこもりの方への相談を継続してきた中で、令和4年度は地域活動支援センター利用に繋がったケースが数例ある。その人らしく過ごすことができる居場所づくりの大切さを感じている。
(2)創作的活動及び生産活動の機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・創作活動は子育て支援中の母親や乳幼児達と一緒に、季節に合った折り紙での製作や、手形や足形でハロウィンやトナカイ、花を表現し楽しんだ。また、アーティストと一緒にアロマリップ作りやフラワーアレンジメント作り等も経験した。 ・射水市まちづくり協議会と共催して、令和3年から開催している「ふらっと作品展」を令和4年度も4月に小杉展示館にて開催した。 ・地域の高齢ボランティアの方と一緒に、夏野菜やサツマイモの植え付けから収穫までの作業を行なって、ふらっと収穫祭を行なっている。また、畑で収穫したラベンダーやミントなどのハーブを地域の方に配布したり、障がい者施設で生産した花苗を購入しプランターで育てている。

(3)社会との交流促進

・「射水市まちづくりネットワーク」の皆さんと障がい児者の皆さんがアーティストと共に、自由に絵を描きのぼり旗を作成し、その後のふらっとのイベントに活用している。「小児がんのコト親の会」の皆さんからレモネードが配布され、活動紹介や交流を行った。

・感染症対策に留意しながら、積極的にボランティアを受け入れ、県内外からの見学者の受け入れについても、昨年度整備した「みどりの居処」を活用して実施した。また、看護学生や福祉系の学生と、オンラインを通じて交流した。

・障がいのある方の介護家族に対して、地域のWebデザイナーを講師に迎えて「ふらっとスマホ講座」を年4回開催した。ビデオ通話等でコロナ禍でのコミュニケーションツールやアプリの入れ方などの操作方法を教わった。

・障がいのある方の虐待防止や、権利擁護・意思決定支援を推進するために、「チームカラフルs」を結成し、定期的に地域住民や外部委員との話し合いの場を設けている。

・海王丸パークで開催されたライブイベントに、地域生活支援事業の障害者(児)移動支援事業を活用してグループで出かけ盛り上がった。

・射水市・高岡市・富山市の介護・福祉事業所や富山医療福祉大学、金城短大の学生、射水市社会福祉協議会の方々参加により、スポーツ交流会「第8回スポランふらっと杯」を開催し、カタレ富山の選手とZOOMでの交流をしながら、各事業所の利用者・スタッフ、地域の医療的ケア児、子育て中の親子、介護が必要なお年寄りや発達障がいの方と共に運動を通じて交流した。救急薬品市民交流プラザを本会場として、市外の各事業所9か所とはZOOMを活用し、合計160名の参加となり盛り上がった。

・「射水市障がい者理解促進研修・啓発事業」も活用して、事前準備から学生や地域のボランティアの方に協力をしていただきながら、事業所内で3日間に分散してクリスマス会を開催した。感染防止対策を徹底しながら、ランチやバルーン、ジャグリングショー等を実施し、利用者やご家族、ボランティアの皆さんはもとより、一般の方々への社会啓発とした。

・近所の教会の皆さんの訪問でXmasソングのプレゼントが届き、一緒に歌ったりプレゼント交換をしたりと交流を深めた。

職員配置について

区 分	氏 名	資 格
管理者・相談支援専門員	宮袋 季美	
センター長・主任相談支援専門員	山本 真紀子	社会福祉士・保育士
相談支援専門員	佐藤 格	社会福祉士
相談支援専門員	熊田 由依	介護福祉士・保育士
相談支援専門員	池田 美幸	社会福祉士・保育士
支援員	増川 元英	

2 相談支援の実績

(1)運営体制について

相談窓口

窓 口	場 所
受付窓口 8:30~17:15電 話 24時間(17:15~翌8:30は留守番電話対応) ファックス 24時間 メール 24時間	

(2)相談件数について(令和4年4月1日~令和5年3月31日)

①相談方法別件数(延べ件数)

訪問	来所	同行	電話
80	824	20	2,386

電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
192	24	123	289	3,938

②相談内容別件数(延べ件数) (相談内容を重複計上)

福祉サービス	障害理解	医療機関同行	服薬・健康管理	不安解消	幼稚・保育園紹介
2,638	274	29	697	252	2

教育・進路	家族・人間関係	年金・生活保護	金銭管理	家事	育児
79	45	30	8	13	20

就労	サークル活動	外出・移動	虐待	成年後見	その他	合計
13	9	14	11	0	254	4,388

③相談受付件数(延べ人数)

身体	重心	知的	精神	発達	高次脳
241	389	1,430	157	321	20

その他(重複無)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	その他(重複あり)	合計
221	1015	48	0	0	96	3,938

3 創作的活動及び生産活動、社会との交流促進の参加実績(延べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
創作的活動	53	48	24	35	36	102	54	89	56	62	66	71	696
生産活動	19	46	36	33	22	45	10	26	40	42	43	70	432
社会との交流促進	58	98	49	36	164	21	51	85	62	17	52	41	734
合計	130	192	109	104	222	168	115	200	158	121	161	182	1,862

4 課題

- ① 土、日、祝日の利用希望が多く、利用者ニーズに応えきれていない。
- ② 外出支援等、通所サービスに代わる活動の充実。イベントや夜間の外出ニーズなど、beyondコロナにおける活動ニーズに応えるための経費が嵩んでいる。
- ③ 身体障がいや医療的ケアのある方の利用ニーズを受け切れていない。
- ④ 生活困窮やひきこもりの方、既存の福祉サービス利用につながりにくい方からの相談や、居場所としての利用が増えている。地活センターのみではなく、その方々の地域での見守りなど、社会資源の発掘と連携が必要。
- ⑤ コロナに罹患した方や家族への関わり方。不安解消やサービス再開への助言。
- ⑥ 物価の高騰や長引くコロナ不況で増えた収入や家計に関する相談や、海外出身の方への支援から。福祉、教育関係の手当の支給等について、ワンストップ型の情報提供の重要性。
- ⑦ 地域生活支援拠点事業の周知不足。緊急時の受け入れ事業について、ニーズがあるにも関わらず実際の活用は2年間出てきていない。せつかくの体制なので、使いにくさはないかなど、検証と見直しが必要。

令和4年度射水市障がい者地域活動支援センター実績報告

委託先	特定非営利活動法人ワークホーム悠々	類型	地域活動支援センター（基礎的事業のみ）
標準利用人員	10人/日	委託金額	6,000千円

1 事業総括

令和4年度目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・時代（状況）に応じた活動の実施/ニーズに応じた活動の実施 ・主体的に参加できるピア活動の実施 ・関係機関、地域との連携 ・障害に対する理解を促進するための活動を行う 	
事業内容	成果
基礎的事業 (1) 相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・相談件数は1,557件（前年度1,518件）。 ・相談者内訳は精神障がい者が1,333件（85%）と最も多い。 ・約半数が電話相談であり、1日に何度も電話があったり、1件の相談に時間を要するものも多い。 ・相談内容は不安の解消や福祉サービスの利用が多い。 ・新規の相談は20件あり。市や他事業所・医療機関からの紹介や、情報を得たうえで本人もしくは家族から相談が入った。相談できる場所がほしい、仕事が長続きしない、家にこもりがちなので地域活動支援センターを利用したいなどの内容だった。また、包括支援センターから関わっている家庭で支援が必要そうなお子さんがいるという相談もあった。傾向としては、発達障害や双極性障害、うつの方が多く、成人以降に療育の判定を受けられた方も数名いた。 ・計画相談で関わっていた方が福祉サービスの利用を終了されても、引き続き相談に対応するケースが多い。
(2) 創作的活動及び生産活動の機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の見学は10件、体験利用の実施は7名、新規利用登録者は3名。登録解除は2名で、年度末時点で41名登録。 ・開所日240日、年間延べ806名の利用あり（前年度1,008名）。 ・毎月ミーティングを実施し、希望を取り入れながらプログラムに反映し、活動した。 ・コロナの感染拡大状況をみながら、可能な限り外出プログラムなどを企画し、実施した。 ・身体を動かすプログラム（体育館で運動をしよう、ヨガ、ストレッチ、100歳体操など）が好評。 ・タブレットの利用が増えたことで操作を覚えたり、活用を通して利用者同士の交流が深まった。 ・外部講師を招いて絵手紙教室や押し花教室、太極拳などを行った。 ・火、木曜の午後はワークホーム悠々（就労継続支援B型）へ移動してステップアップを目指す方の作業時間帯と位置付けている。実人数5名の参加があった。
(3) 社会との交流促進	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に周辺地域の街頭清掃（延べ12回/35名）を実施した。 ・近隣施設の利用を積極的に行ったり、公共交通機関を利用しての外出も実施した。 ・コロナの感染拡大状況をみながら、ヘルスサポーターや民生委員、地域住民に案内をし、行事参加を通して交流を図った。 ・町内会へは資源回収や行事案内などを継続的に実施した。特に資源回収は、高齢化が進んでいることもあって地域からのニーズが高かった。

職員配置について

区分	氏名	資格
管理者・相談支援専門員	戸田みどり	精神保健福祉士
指導員・支援員	西尾沙織里	
指導員・支援員	赤松聡美	介護福祉士
指導員・支援員	黒田 祐子	

2 相談支援の実績

(1) 運営体制について

相談窓口

窓 口	場 所
地域活動支援センターつどい	同左
受付窓口	9:00～16:00
電 話	24時間（受付時間以外は留守番電話対応）
ファックス	24時間
メール	24時間

(2) 相談件数について（令和4年4月1日～令和5年3月31日） ※市内のみ

①相談方法別件数(延べ件数)

訪問	来所	同行	電話
139	158	12	778

電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
14	34	422	0	1,557

②相談内容別件数(延べ件数)（相談内容を重複計上）

福祉サービス	障害理解	医療機関同行	服薬・健康管理	不安解消	幼稚・保育園紹介
518	205	0	35	690	0

教育・進路	家族・人間関係	年金・生活保護	金銭管理	家事	育児
0	45	1	13	1	3

就労	サークル活動	外出・移動	虐待	成年後見	その他	合計
14	0	0	7	0	25	1,557

③相談受付件数(延べ人数)

身体	重心	知的	精神	発達	高次脳
100	0	42	1,333	15	0

その他(重複無)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	その他(重複あり)	合計
0	0	36	30	0	1	1,557

3 創作的活動及び生産活動、社会との交流促進の参加実績(延べ人数) ※市外含む

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
創作的活動	52	54	52	34	29	39	47	53	74	39	57	48	578
生産活動	15	13	18	9	7	8	7	6	6	5	4	3	101
社会との交流促進	4	7	11	26	3	4	15	7	3	20	10	17	127
合計	71	74	81	69	39	51	69	66	83	64	71	68	806

4 課題

- ・プログラムの充実（参加したくなるようなプログラムの提供）と工夫、ピア活動の継続
- ・ボランティアの受け入れや地域との交流事業の実施再開
- ・家族同士の交流・情報交換などの機会の提供を増やす
- ・人員の確保

令和4年度 射水市障がい者地域活動支援センター実績報告

委託先	特定非営利活動法人むげん	類型	地域活動支援センター（基礎的事業のみ）
標準利用人員	15人/日	委託金額	6,000千円

1 事業総括

令和4年度 目標

地域活動支援事業としては、利用される方々のニーズに寄り添った活動を展開し、生産活動や創作活動を通して持てる能力の維持・向上を図り、社会活動の交流をより充実したものとし、自立する力の促進を図りたい。今年度は多くの課題のある方々への支援依頼が多く、それぞれの課題解決に関わり、むげんが障がい者やひきこもり者等の居場所となり、安心できる環境づくりに努めたい。昨年度より開催頻度を増やし、ボランティアの方々と交流を促進させ、リニューアルしたコミュニティ喫茶「よってかれま」では、コロナ禍で活動が制限されていたが、今年度より地域包括支援センターとも連携し、「認知症カフェ」の開催といった新たな拠点となる事業を模索していきたいと考える。また、感染予防を徹底しながら、納涼祭やクリスマス感謝祭といった企画を地域の方々と共に企画し、交流を図る機会を模索したい。

事業内容	成果
基礎的事業	
(1) 相談支援	市や社会福祉協議会、地域包括支援センターと連携し、障がい者やひきこもり者の方々の日常的な相談を電話やメール等を活用し窓口を増やしていくことで、随時迅速に対応し、地域課題等の解決に努めた。
(2) 創作的活動及び生産活動の機会の提供	利用される方のニーズに沿って、作品展に向けての作品作りや、チューリップの球根植えや販売に向けてのメッセージカードづくり、軽作業を通しての生産的活動を行った。また令和4年度より新しく開催した事業としては、単身生活者を対象とした調理実習を月1回行い、自宅にあるもので簡単に取り組めるメニューの提案し調理に取り組み、持てる能力の維持・向上を図った。
(3) 社会との交流促進	コロナ禍であっても地域の方との交流を持つ機会として、秋季に東三ヶ長寿会と共同で「心豊かに過ごす人生100年時代」をテーマにし、老後の健康維持や趣味、終活といった講座を開催し、各講座10名以上を超える方に参加頂いた。また、クリスマスにはお世話になった理事の方とともに滝沢卓氏のライブ演奏を楽しみ、音楽を通して心をひとつにした。久しぶりの外部の方を招いての事業を開催した年でもあり、今後も地域交流を継続していくことの大切さを改めて実感した。

職員配置について

区 分	氏 名	資 格
管理者	門田 晋	
センター長・相談支援員	福島 千尋	精神保健福祉士・相談支援専門員
相談支援員	門田 晋	精神保健福祉士・相談支援専門員
相談支援員	門田 悦子	精神保健福祉士・相談支援専門員
支援員	株溪 光香	介護福祉士

2 相談支援の実績

(1) 運営体制について

相談窓口

窓 口	場 所
受付窓口 8:30~17:15 電 話 24時間 (17:15~翌8:30は留守番電話対応) ファックス 24時間 メール 24時間	

(2) 相談件数について (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

①相談方法別件数 (延べ件数)

訪問	来所	同行	電話
199	88	8	348

電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
4	5	21	0	673

②相談内容別件数 (延べ件数) (相談内容を重複計上)

福祉サービス	障害理解	医療機関同行	服薬・健康管理	不安解消	幼稚・保育園紹介
419	11	6	103	31	0

教育・進路	家族・人間関係	年金・生活保護	金銭管理	家事	育児
	25	5	17	2	0

就労	サークル活動	外出・移動	虐待	成年後見	その他	合計
23	1	1	2	14	13	673

③相談受付件数 (延べ人数)

身体	重心	知的	精神	発達	高次脳
74	0	93	443	21	0

その他 (重複無)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	その他 (重複あり)	合計
7	4	31	0	0	0	673

3 創作的活動及び生産活動、社会との交流促進の参加実績 (延べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
創作的活動	39	51	55	55	62	38	28	21	22	49	27	32	479
生産活動	58	58	79	70	70	66	65	100	70	50	82	78	846
社会との交流促進	31	25	25	25	10	25	45	63	29	18	32	23	351
合計	128	134	159	150	142	129	138	184	121	117	141	133	1,676

4 課題

地域活動支援センターは、平均して月に延べ140名の方に利用して頂いた。令和3年度は平均155名であったことに対して、やや減少している。令和4年度には、当法人利用者・スタッフにとってもコロナ感染が拡大し、長期の休業を取らざるを得ない方々が個人的に増えてきたことや、事業所としても県の警戒レベルが上がるとともに、不急・不用の外出を控えるため、土曜日の開催や、コミュニティカフェ「よってかれま」の開催を自粛したこともあげられる。

令和5年度より、コロナの規制緩和も実施されてくることから、徐々に賑わいの創出をすべく、コロナ禍を経て検討を重ねた。子どもから高齢の方まで安心して利用できる「むげん」であるため、障害福祉の事業所としてはもちろん、地域のニーズに寄り添った事業が展開できるよう、放課後や長期休暇の子供たちの居場所として、ドッグカフェを併設し、ペット連れの方でもゆっくりお茶を時間を過ごせる居場所として、新たなむげんの事業にチャレンジしていきたい。

令和4年度 射水市相談支援事業実績報告（あいネットいみず）

委託先	射水福祉会 あいネットいみず	委託金額	6,000千円
-----	----------------	------	---------

1 障がい者相談支援事業に関すること

事業内容	実績
<p>(1) 福祉サービスの利用援助に関すること</p> <p>(2) 社会資源を活用するための支援に関すること</p> <p>(3) 社会生活力を高めるための支援に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・射水市子育て支援センター（キッズポートいみず）で行われた射水市地区相談会に相談支援スタッフとして出席し、障がい児の進路についての指導、助言を行った。令和4年度はコロナウイルス感染防止対策をしながら7回参加した。 ・支援学校卒業生に対して移行支援会議などを通して福祉サービスの利用に向けて支援した。 ・学校、病院、ハローワーク、障害者就業・生活支援センター、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所などと連携し、利用者、保護者、事業所と相談支援専門員で、障がいの理解や利用者の就業面や生活面での課題解決に向けての面接や会議等を年間数回行った。
<p>(4) ピアカウンセリングに関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一般就労している利用者が集まり、自分たちの仕事の様子やお互いに頑張っていることや悩んでいることを話し合った。また、料理教室や工作教室などの創作活動の後にも障がい者同士が職場や生活のことについて気軽に話し合う機会を計画した。
<p>(5) 権利擁護のために必要な援助に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見に関して、保護者の中で多く理解されてきている。今年度は、男性1件女性2件の支援をした。1件につき1回～3回にわたり、成年後見センターと連携しながら、情報提供や情報確認、助言を行いながら、司法書士を通して成年後見の申し立てを行った。後見人を高齢の親族から第三者に依頼するための支援をした。また、選挙に伴う投票に関する支援や障害基礎年金の再申請手続きの支援、療育手帳の申請の支援も行った。
<p>(6) 専門機関の紹介に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談内容に応じて、病院、就業・生活支援センター、後見センター、法律事務所、すてっぷ、障害者職業センター等を紹介し、連絡調整をしながら対応した。

2 相談支援機能強化事業に関すること

事業内容	実績
<p>(1) 専門的な知識を必要とする困難事例等への支援に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・射水市障がい者総合支援協議会相談支援部会（年12回）でストレングスアセスメント票に基づく事例検討をグループワークで行った。 ・部会の活動を通して、保健・福祉・医療・教育等、関係機関との連携作りに努めた。 ・県圏域アドバイザー派遣事業での講演や主任相談支援専門員との会合を行った。

<p>(2) 射水市障がい者総合支援協議会の開催及び運営並びに構成員に対する専門的な指導、助言等に関すること</p>	<p>・射水市障がい者総合支援協議会において、各相談支援事業及び障がい者地域活動支援センターの活動の現状、課題等について検討を行った。</p>
	<p>・相談支援部会を毎月第4木曜日に（13：30～15：30）に定期的に開催した。事例検討を3回して、共有化を図り、事例提供後の状況報告も行った。研修会は、県圏域アドバイザーや県精神保健福祉士を招いて相談支援の実践や障がい者の防災について学び、計2回行った。年度末には、事例検討から浮かび上がった地域課題の共有や相談支援専門員の悩みについて、解決に向けてグループワークを行った。来年度の事例検討では、地域課題の解決に向けて、各専門部会の事案に関連するケースには、各部会長にも出席を依頼し、情報と課題の共有を図っていく予定。</p>
	<p>・就労支援部会を2月10日に開催し、事前打ち合わせを10回行った。今年度は、障がい者と企業を繋ぐ場の創出に向けた取組を目指し、障害者就業・生活支援センターと合同で座談会と講演会を行った。座談会では、アイディック株式会社営業本部総務部次長兼人事総務課長川崎博之氏より、障がい者雇用の取組についての話を聞いた。部会員から事前にとったアンケートの質問を基に、就労系事業所だけでなく商工会や商工会議所、相談事業所等、様々な職種間で情報の共有を行い、繋がりを深めた。来年度は、当事者へのニーズ調査を基に、射水市の就労の課題を整理して、その解消に向けた話し合いを行い、地域の障がい者が就労に結びつくことのできる地域づくりを目指していく予定。</p>
	<p>サービス事業者部会を2回開催した。10月21日には、地域生活支援拠点整備事業について、富山県障害福祉課支援係平内由利氏より話を聞き、市社会福祉課より射水市の取組について説明を聞いた。2月21日には、各事業者からの事例発表のあと意見交換会を行った。</p>
<p>・子ども部会では、医療的ケア児、発達障がい児の課題をテーマに、7月19日、10月14日、2月9日の3回開催した。役割分担などの事前打ち合わせは1回行った。幼児ことばの教室中川氏、子ども発達相談室中村氏より「射水市幼児ことばの教室巡回訪問について」「射水市発達フォロー児支援体制について」、一般社団法人ストレングス紙飛行機川端氏、本江氏より「射水市内の医療ケア児等対象事業所について」、富山県医療的ケア児等支援センター河井氏より「医療的ケア児等のかかわりと関係機関との連携について」、射水市教育委員会石黒氏、片口小学校放課後児童クラブ滑川氏より「射水市の放課後児童クラブについて」拝聴した。来年度は、医療的ケア児、不登校児について検討を行っていく予定。</p>	
<p>(3) 市内の相談支援体制の整備状況、ニーズ等を勘案した事業実施計画の作成に関すること</p>	<p>・具体的な計画作りを進めるために、個別のケースを通して地域課題の整理、分析を行った。</p>

課題

- ・地域生活支援拠点等についての緊急時の支援対象者への対応方法や事前登録について
- ・障がい者の自立支援に係る地域の課題の抽出と社会資源の開発
- ・相談員の資質向上を図るための研修会